

# 松島自然の家の復旧

## 1 被害状況の概要

津波の直撃により本館は壊滅状態であり、屋外施設は流出した。施設の被害額は推定 2,000 百万円（調査中）である。当日、利用者はおらず、また、職員等 11 名は屋上で一夜を過ごし、翌日に自衛隊のヘリコプターで救助され全員無事であった。

## 2 建物被災調査の結果

①調査期日 平成 23 年 5 月 20 日

②調査者 日本建築学会文教施設委員会耐震性能小委員会 田才 晃 氏

### 【本館】

〈被害概要〉・津波侵入の高さ 2 階床面から 1.89 m（1 階床面から 5.79 m）。  
・建物周囲は広範囲にわたり地盤が流出し、基礎部分が露出している。  
・上部構造の被害は軽微である。

〈対策〉・上部構造及び基礎の復旧

### 【宿泊棟】

〈被害概要〉・建物周囲は広範囲にわたり地盤が流出し、基礎部分が露出している。  
・上部構造の被害は軽微である。

〈対策〉・上部構造及び基礎の復旧

### 【体育館】

〈被害概要〉・津波侵入の高さアリーナ床面から 3.42 m（地面から 4.48 m）。  
・アリーナの床全体が、束材から浮き上がり、著しく隆起している。  
・建物周囲は広範囲にわたり地盤が流出し、基礎部分が露出している。  
・上部構造の被害は軽微である。

〈対策〉・上部構造及び基礎の復旧



[本館前の地盤沈下]



[キャンプサイトの全壊]

### 【第 1 サイト】

〈被害概要〉・上部構造の被害は軽微である。

〈対策〉・上部構造及び基礎の復旧

#### ※上記 4 施設に対する意見

上部構造は軽微なひび割れが見られる程度で構造被害は軽微である。一方、津波による浸水高さは、その痕跡から 2 階中央高さに達している。その為、1, 2 階の鉛直部材は海水に浸されており、海水はひび割れを通して内部に進入していると考えられる。また、周辺地盤の流出が甚大である。復旧においては、この進入した海水、特に塩分が部材の耐久性、耐震性に与える影響を適切に考慮して行う必要がある。復旧に際しては、改築も視野に入れ、地震のみならず津波に対する十分な安全性を確保した計画とする必要がある。

【第2サイト，第3サイト，第4サイト，第5サイト】

〈被害概要〉・地盤の流失に伴い倒壊した。

〈対策〉・地盤の流出により倒壊，補強による復旧が困難なため，「改築」して復旧する必要があると判断される。

- ・復旧に際しては，地震のみならず津波に対する十分な安全性を確保した計画とする必要がある。

3 再開までの松島自然の家の業務

当分の間，東松島市にある鷹来の森運動公園旧管理棟を仮事務所，公園内の一部を活動拠点として受入及び主催事業を展開するほか，要請に応じて出前講座を実施。沿岸部市町村が津波被害を受け社会教育施設の流失や社会教育担当者の人員削減により，社会教育・生涯学習事業が停滞している可能性があるため，松島自然の家が同事業に対して広域的に積極的な支援を行っていく必要がある。

また，施設再建に向けての業務として移転候補予定市町村の情報収集や再開後のプログラム開発なども併せて行っていく予定である。